

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：川崎市高石保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：渡邊恭枝	定員（利用人数）： 90名（利用人数：90名）	
所在地：〒215-0003 川崎市麻生区高石1-14-15		
TEL：044-954-5355	ホームページ： https://www.city.kawasaki.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和51年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：川崎市		
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員：15名	
専門職員	（専門職の名称） 名	栄養士：1名
	園長：1名	看護師：1名
	園長補佐：1名	調理員：5名
	保育士：26名	用務員：2名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：8室	園庭：有
	トイレ：2ヶ所	屋外：常設プール
	調理室：1ヶ所	
	事務室：1ヶ所	
	4ヶ月児室：1室	
	浴室：1室	
調乳室：1室		

③ 理念・基本方針

【保育理念】

子どもの権利を保障し、未来を担う子どもたちの生きる力の基礎を育む保育

【基本方針】

- 安心できる関係の中で、一人ひとりの要求を満たしながら情緒の安定を図る。
- 健康・安全な生活に必要な基本的な生活習慣を養う。
- 友達と一緒に遊ぶ楽しさの中で、おもいやりや自主性を育てる。
- 保護者と共に子どもの育ちを共感しあい、信頼関係を作っていく。

【保育目標】

- た 楽しくあそぶ子ども
- か 考える子ども、
- い 意欲のある子ども、
- し 自分を好きになれる子ども

理念・基本方針は、見やすいところ、事務室、事務室前廊下に掲示して、保護者や地域の来園者、関係機関の方々の眼にとまるようにしています。同時に、子ども本人や家族の方々には特に、入園のしおりや保育説明会の資料に明記し、説明会や懇談会を

通して保護者に伝え、子どもには保育活動を通して伝えるようにしています。職員については、年度初めの会議で保育理念、保育目標、保育方針を確認しています。そして1年を通しての振り返り（週、月、期、年）を行い、全職員で理解を深めようとしています。

③ 施設・事業所の特徴的な取組

高石保育園は、小田急線「百合ヶ丘」徒歩5分の住宅地に昭和51年5月1日開設されています。園舎は、鉄筋コンクリート2階建てで、建てられてから年数を経っていますが、園庭の芝山には湧き水が流れ、サワガニなども生息するなど環境にも恵まれています。保育相談や保育体験、園庭開放等で地域との交流を深めています。保育の中で「朝の会：歌」「運動遊び：リズム遊び・ムーブメント」「食育：栽培物・献立の食材や郷土料理の紹介」「人権集会」「三者連携健康集会」などの他、発達相談支援コーディネーターが8名在籍しており、お子さんの発達支援について検討しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年10月20日（契約日）～ 令和6年3月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2018年度）

⑥ 総評

◇ 特長や今後期待される点

1) 生活と遊びを豊かにする保育が展開されています

初詣、新年会、節分、ひな祭り、七夕、クリスマス会、お餅つき等四季の行事をクラスごとや、異年齢合同で楽しみ、季節感や文化を大切にしています。積極的に戸外活動をしており、園庭には樹木や湧き水がある自然の地形があり、昆虫、草花に触れ、四季を楽しめる環境があります。園の畑で野菜や稲を栽培し、稲は精米しておにぎりを作りました。移動動物園、人形劇やコンサート、サッカー教室に参加する機会もあります。子育て支援事業と一緒に参加することもあります。地域の高齢者施設と定期的に交流を続けています。異年齢交流の「なかよしデイ」があり、縦割りグループで活動してリズム運動を一緒にしたり、お互いを思いやる気持ちが育っています。SDGsの取組も行っています。子どもたちは意欲的に様々な体験に取り組み、心身の育ちに繋がっています。

2) 家庭と連携して育ちの連続性を大切にしています

子ども一人ひとりの育ちを理解し、丁寧に対応していくことを心がけています。保育園と家庭の生活の流れや連続性を大切にして、子どもが安心して過ごせるよう環境を整えています。各クラスは複数担任とし、余裕を持って子どもの気持ちに寄り添った対応ができるようにしています。各種会議、打ち合わせ、ミーティングノート、園内研修等で情報共有し、様々な分野で子どもの様子を伝えあっています。保育環境も見直しながらそれぞれの子どもに興味や発達を大切に保育に努めています。子どもの気持ちや言葉を十分受け止め、子どもや保護者との信頼関係を作り、子育ての喜びを共感し合えるように取り組んでいます。

3) 地域の人材育成担当園としての役割を担い、努めています

保育に携わる人材育成の担当園として年間研修計画を作成し、保育者として専門性の高い知識・技能や人間力について、体得を積み重ねる学習・研修の場を提供しています。地域の子育てニーズを把握し、様々な視点や角度から地域全体へ適切な支援提供ができることを目指し、公開保育、出張講座、ウェブでの情報提供など、民間園との

連携を強化し、共に一律のスキル習得を目指した人材育成に取り組んでいます。

4) 研修での学びを共有する工夫が期待されます

人材育成を重点目標とする園として、母体の川崎市が作成する階層別、専門別、テーマ別等、職員一人ひとりの学びの場を確保しています。研修受講後は報告を行い、共有する機会を設けていますが、多忙で時間調整が難しい状況です。研修は保育現場で実践して活用できているかどうか重要であり、研修後の具体的な取組を職員間で共有する工夫が期待されます。

5) 事業計画を明確にし、PDCAサイクルの構築が期待されます

全体的な計画や年間指導計画を作成していますが、事業計画の策定は行っておらず、それに替わるものとして「プロジェクト・係 年間計画一覧表」を今年度から策定しています。園運営に関してプロジェクトごとの担当者を設け、年間計画を作成して実施していますが、報告・反省に終わっているものもあり、次につながる具体的な取組になるよう検討しています。保育計画だけでなく、人材や設備などの計画（Plan）を明確にして、実施（Do）、評価（Check）を行い、改善（Act）に向ける仕組みが望まれます。川崎市の中期計画をもとに、園としての単年度事業計画を策定し、最重要課題について具体的な成果や課題などの確認ができるPDCAサイクルの活用が望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回から5年間の月日の積み重ねの中で、今回の第三者評価の実施結果を受けて、まだまだ伸びしろがあると期待される部分や、課題が明確となりました。今後も多職種職員が協力して園運営に当たり、伸びしろの部分にフォーカスをあててより良い保育の実施ができるよう工夫をまいります。また課題の部分につきましては貴重なご意見を真摯に受け止め、よりよく改善するために職員全員で課題分析をし、今後の計画に反映させ、PDCAサイクルに取り組みます。

建物の構造上の課題では改善できない部分はありますが、物的、人的環境の工夫の中で公立保育園の器を活かし、特に保育方針にあるように保護者と共に子どもの育ちを共感しあい、信頼関係構築のもと、安心できる関係の中での情緒の安定や自主性の育ち、生活習慣を養うという保育方針を今一度再確認し、子どもの権利を保障し未来を担う子どもたちの生きる力の基礎を育む保育を、保護者と共に実施できるよう今後も務めてまいります。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり